



時代を拓き 世界に貢献する人を目指して

Global View

2020 年 2 月 28 日 Newsletter 第 66 号 仙台白百合学園中学・高等学校 国際教育部

高校Ⅲ年 学年主任 高橋 行男先生(英語科)

周囲に敏感になれ、道は広がる！

2千8万6百人というのは何の数字かご存知ですか。これは、昨年の日本人の海外への出国者の数です。初めて2千万人を越えたということでニュースにもなりました。この数は、外国人訪日者(約3千百万人)の数からするとずっと少ないように思いますが、過去最高の記録です。この数字が示す通り、出入国する人の数が年々増えていることが分かります。日本は国際都市の仲間入りをしたと言ってもいいでしょう。因みに、私が初めて海外に出かけたのは1986年(34年前)でしたが、その時の出国者数は5百51万6千193人でしたから、3.6倍増えたことになります。

私の場合、最初の海外は北米での短期留学のためでした。大学4年生であったために、帰国した時には周りの者はみな就職内定をもらっているような状態でした。当時就職協定は存在していたものの青田買いが進んでおり、帰国した9月には実質的に就職活動が終了していました。そこで考えたのは進学することでした。状況も整っていたので、米文学を続けて勉強することにしました。1850年前後の時代の作家についてです。日本でいうと、江戸時代末期ですね。米文学を勉強しているとよく使う道具は辞書です。そこから辞書マニアにもなるくらい辞書を引きました。日本文学においてもよく教科書で目にする鴎外の文などは雅文体と呼ばれる古い文体を使って書かれていたりするので、その助けが必要なのです。文化的側面においても現代とはかなり異なるので参考資料は欠かせません。修士の1年生の春に、大学生協で某旅行会社の飛行機10回乗り放題格安券を目にし、早速アメリカに出かけました。この時は1か月程度の旅行で、飛行機の10回に加え、AmtrakやGrayhoundを使いアメリカ一周をしました。Atlanta, DC, Philadelphia, NYC, Boston, Salt Lake City, Las Vegas, Grand Canyon, LA, San Francisco, Seattleを訪問しました。面白いのは、東部は歴史的な場所がかなり残っており、Civil Warを始めとする史跡、文学作品ゆかりの地が豊富に存在します。キング牧師の墓も参拝してきました。一方、西部は開拓者時代の名残と自然界が引き起こした奇跡を目にすることができます。また、アメリカ南部、北東部、西海岸では話されている英語も異なることが確認できました。史跡での説明を聞き取ることに四苦八苦したことが思い出されます。この旅行を通して、自分に自信が付き、次のステップに進む手応えを感じました。

卒業後、すぐに仙台白百合で教鞭を執ることになりました。学生時代の興味関心を失うことなく現在に至ります。勤めてから海外引率にも預かり、これまで、米国のVancouver, Seattle(Bellevue), カナダのSaskatoonやVancouver, ニュージーランドのHamiltonやRotorua, オーストラリアのSydney, 韓国のSeoul, フィリピンのManila(Pasig)などで生徒同様ホームステイを経験してきました。最近では、この新聞でも昨年紹介した、フィリピンの国際教育者会議に参加し発表までさせていただく機会に恵まれました。私的には、文学や辞書のゆかりの地を訪問し、YaleやBowdoinの図書館でも調べ物をしてみました。趣味が高じて2008年にMerriam-Webster社から辞書を出版する手伝いができたのもうれしい限りです。

さて、ここまで読んでくださって「いったいお前は何を言いたいんだ？旅行先の羅列じゃないか。」と思われる方がほとんどだと思いますが、要はここでは紹介しきれないくらいいろいろな機会に恵まれ、学んできたということです。冒頭に述べたように、国際社会の仲間入りをした日本は「井の中の蛙」であってはいけないということです。自分を取り巻く周囲の人から、世界の国々にまで敏感になり、日本そして日本人であることのアイデンティティーをしっかりと持ち、それを世界に知らしめると同時に、他国の状況も学び、受け入れることが大切なのだと思います。この言葉を聞いて、人それぞれに受け取り方はあると思いますが、その受け取ったものが次に進むべき道なのです。特に卒業生の皆さん、地球的な視点に立って羽ばたいてください。